

## カモシカ対策の実態と問題点

奈良井・贄川担当区事務所 郷 原 辰 実

### 要 旨

カモシカによる食害防止の取組み状況の中で、防護柵作設により、被害面積は減少するものの、経費・労力は増加する一方である。

このような状況下で、いかに経費削減と、動物保護の両立を図っていくのか検討するものである。

### はじめに

カモシカが生息する地域においては、造林木に対する食害が49年頃より目立ち始め、年毎に増加し61年度末現在までの被害は、長野県で、国有林1,920ha、民有林7,315ha、計9,235haといわれており、被害の内容は殆どが経済価値の高いヒノキ造林木である。被害が、年々増加するため経済的損失ばかりでなく造林意欲の低下までも生じ、長野・岐阜の両県では個体数調整による被害防止のやむなきに至っている。

当署管内においてもカモシカ食害による被害が増大し、その防止対策として防護柵の作設を実行しているところであるが、この方法では被害は減少するものの年々防護柵作設量が増加するため、年間の作業量に対するウェイトが増え、経常の造林事業実行に大きな影響を及ぼしている現状にある。

カモシカ問題は、3庁合意に従いつつ、自然保護運動等の国民感情にも配慮し、個体数調整に対する諸制約がある中であって、実態報告を兼ねて問題点を提起し忝様の御批判、御指導を得たい。

### 1 当署の概要

当署管内は、木曾谷の北部に位置し、標高900～2,600mの急峻な高冷地帯に分布しており、管轄面積は約6,000haでそのうち人工林は63%を占め、木曾谷の中では人工林率の高い営林署である。また、ヒノキ造林地は人工林面積の41%約1,500haである。

カモシカ食害は、52年度から出始め、その間各種被害防止（ネット・忌避剤など）対策を実施したが、現在では最も効果のある防護柵作設による防止対策を行っている。

被害の状況は、傾斜15度以上で日当たりがよく、雪どけの早い南斜面が90%の被害にあっている。

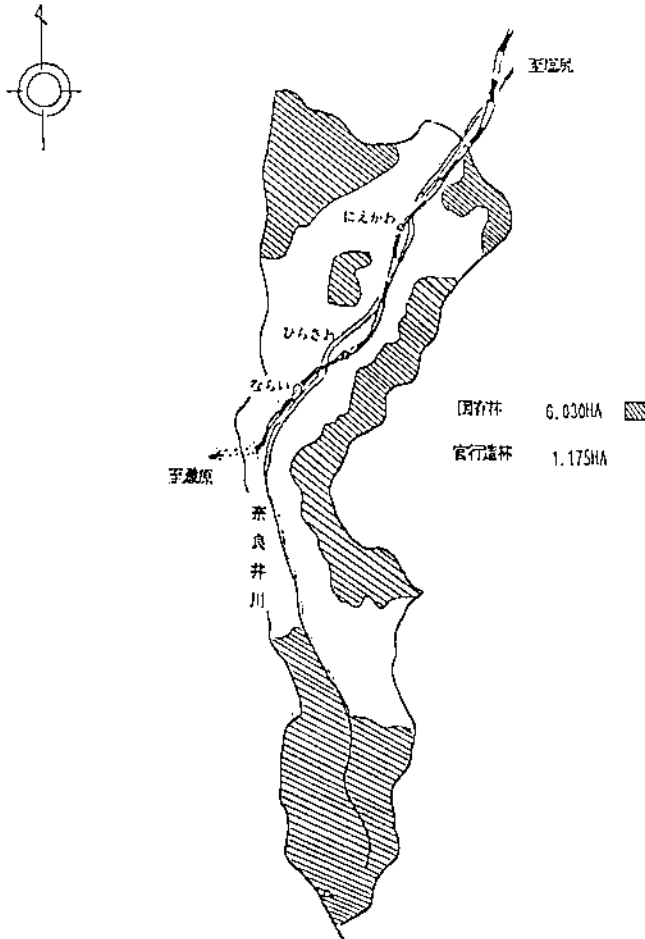


図-1 奈良井営林署管内

表-1 過去10カ年の被害面積

年 度	53	54	55	56	57
被害面積 (HA)	2	3	3	2	5
年 度	58	59	60	61	62
被害面積 (HA)	5	3	4	2	0

表-1は、過去10カ年の被害面積を表したものである。当署では、53～62年度まで毎年5～27haの新植を行っており、被害面積はこのとおりとなっている。62年度については、59年度からの防

護柵作設の成果もあり被害は、0.2ha と殆ど出ていない。

### Ⅰ カモシカ防護柵作設までの対応

防護柵作設については、製品・造林・林道の連携を密にして実施している。

具体的事項として

1. 保残帯の中の小径木を防護柵の支柱にするなど防護柵作設労力の軽減に努める。
2. 集材架線利用による防護柵資材の運搬。
3. カラマツ除伐木を杭として活用。
4. 林道下でのカモシカ防護柵。

積雪及び落石等により、金網が拍傷し、柵内にカモシカが侵入するため、その追出しを行っているが、62年度は、5回延べ73人が出動するなど防護柵作設後においても、網の損傷対策が必要であり、崩土除去及び除雪に当たっては、作業者にも注意を喚起し、立看板表示によって防護柵ヶ所の保護に努めている。

### Ⅱ カモシカ防護柵の作設工期

表-2 カモシカ防護柵の作設状況

		59	60	61	62	計
面	積 (HA)	14	17	10	22	63
延	長 (M)	3,200	4,000	2,700	7,100	17,000
延 人 員	総雇用量 (人)	2,498	2,169	1,704	1,616	7,987
	カモシカ作設 (人)	300	465	310	530	1,605
	比率 (%)	12	21	18	33	20
経	費 (千円)	5,142	7,504	5,288	9,565	27,499
HA	当り (円)	367	441	529	434	436

1. 表-2は、カモシカ防護柵作設状況を59年度からの面積・延長・延人員・経費等で表したものである。HA当りの経費の平均を見てみると、436,000円にもなっている。63年度については、過去の被害箇所も含めて防護柵を作設する予定であるので、約49ha計画している。
2. 図-2・図-3は、造林事業に占める割合を説明したものである。この二つの図からカモシカ防護柵作設の造林事業に占める割合が、いかに大きいかが見える。

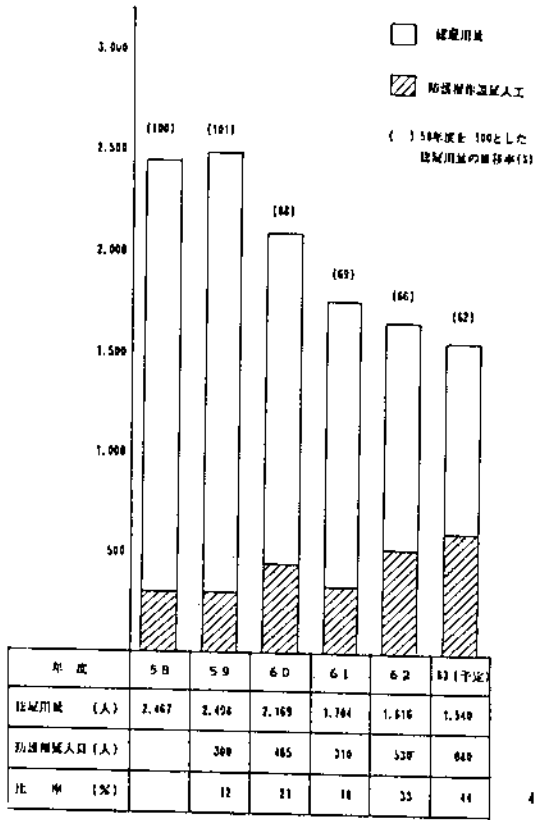


図-2 造林事業に占める割合(延人員)

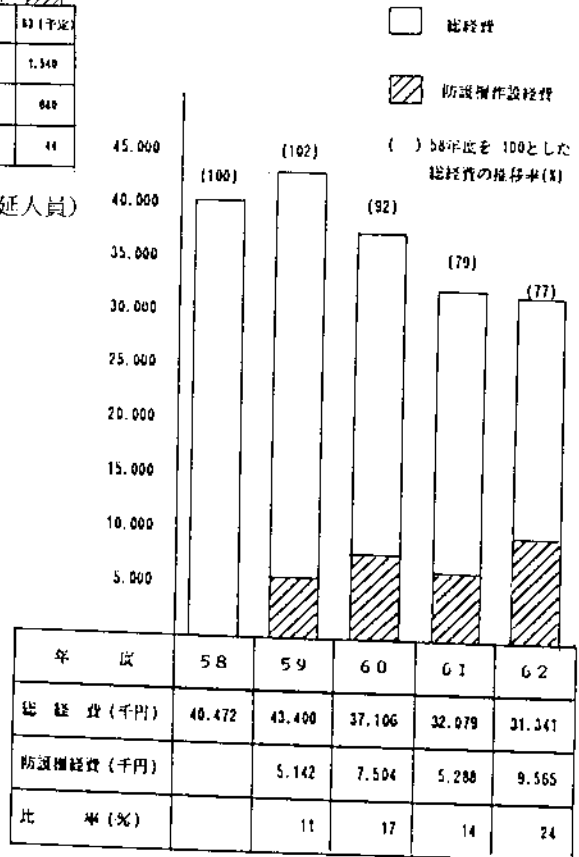


図-3 造林事業に占める割合(経費)

Ⅳ カモシカ捕獲状況

表-3・図-4は、カモシカ捕獲状況であり、カモシカの個体数調整は、54年度から行われているが、楢川村では、56年度から実施している。

表-3 年度別捕獲状況

	58	59	60	61	62
長野県(頭)	297	662	500	555	600
木曾谷(〃)	231	285	277	285	314
楢川村(〃)	20	20	20	20	20

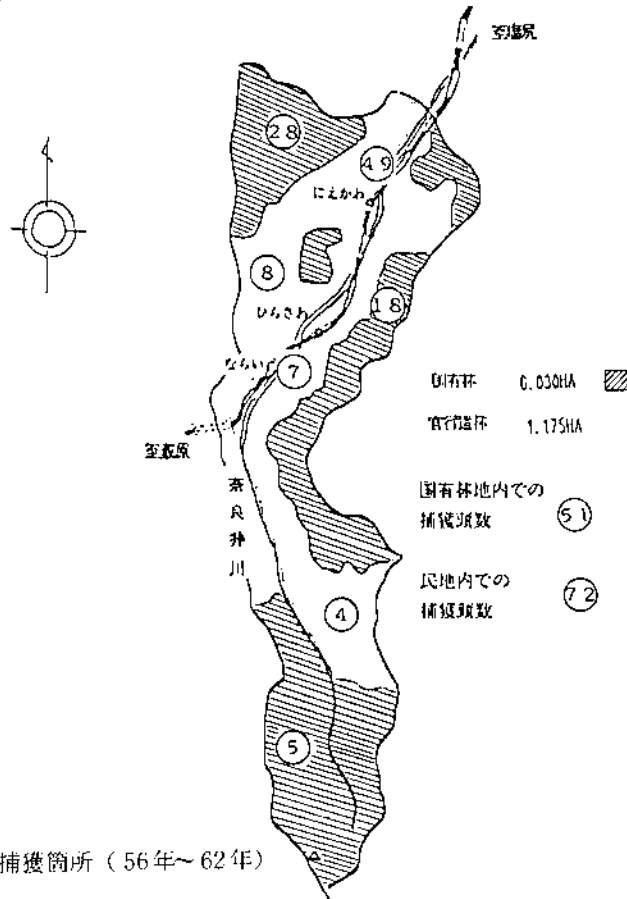


図-4 カモシカ捕獲箇所(56年~62年)

## V 問題点と対策

### 1. 問題点として

- (1) 防護柵作設雇用量が増加し、経常の造林事業に影響が出ている。
- (2) 造林コストの上昇により所要経費増となる。
- (3) 地元との関連として、捕獲経費負担金の支出、毛皮の売れ行き不振がある。

### 2. 今後の対策等について

#### (1) 施業方法の見直し

ア. 複層林施業技術の向上

イ. ヒノキ造林地における有用広葉樹の活用

#### (2) 防護柵作設の請負化の推進

当該作業の請負算定因子の早期条件整備

#### (3) 毛皮の販売

直接国有林と係わっている問題であり、営林局署が黙視しているには忍びがたく、可能な限り応援体制を取るべきである。

ア. 販売時期に企署に通知し、全職員の協力を得る。

イ. 林野弘済会の利用等、円滑な販売を図る。

#### (4) 鳥獣保護対策及び保全管理

この一貫として、カモシカ防護柵作設費用は、人件費を含めて、事業運営経費以外とし、一般会計負担等、御検討をお願いしたい。

## おわりに

カモシカ問題は育林と動物保護の両面から極めて難しい問題であるが、これら両者の調和を図りながら森林の造成をしなければならないことは重要な課題である。

今後さらに、これらの課題について英知と創意工夫により、カモシカ対策に取り組んでまいりたい。